

お客様導入事例

マネースクウェア・ジャパン様



FX取引会社の中でも、「マネーゲームではない資産運用としてのFX取引」といった独自のビジネスモデルを展開している株式会社マネースクウェア・ジャパン(以下、マネースクウェア・ジャパン)は、エクイニクスのIBXデータセンターでカウンター・パーティーとの直接接続によりお客様にとって快適な取引環境を提供しています。



市場業務部
ゼネラルマネージャー
菊池 英彦氏



システム事業部
シニアマネージャー
青木 陽二氏

ネットワークによる遅延を最小化し、リアルタイムな為替取引環境を実現

【課題】

- ・利用客の急増にハードウェアも含めたシステム全体の改善が必須
- ・銀行や取引エンジンを含むカウンター・パーティーとの距離が遠く、トランザクションに影響を与えるネットワーク遅延の最小化

【解決策】

- ・エクイニクスのIBXデータセンターに形成されている金融エコシステムに接続
- ・同じデータセンター構内でカウンター・パーティーと直接接続

外国為替証拠金取引(FX取引)サービスを国内で展開するマネースクウェア・ジャパンは、サービス開始当初は富裕層向けに将来的な資産運用をマンツーマンでコンサルテーションすることをメインとしていましたが、2008年よりそのノウハウで培った実績を基に、オンライン完結型の新商品『M2Jダイレクト』をリリースし、富裕層からリテールへと顧客層の裾野が広がりました。さらに、『トラップリピートイフダン®』注文(2010年特許取得済み)など、リスクを管理しながら堅実に利益を追求することが出来る、複数の独自の発注管理機能の提供により、利用者数が急増していました。このような状況下、システム事業部では、取引基幹システムの通信帯域の容量を増強する必要がでてきており、ハードウェアのリプレースを迫られていました。

マネースクウェア・ジャパンが提供する取引システムは、銀行等の金融機関を含むカウンター・パーティーと直結しており、FX取引における為替レートの情報を常時やり取りしています。FX取引においては、24時間365日、世界中で取引が行われている中で、その瞬間に最良の為替レートでカバー取引*できるのが理想です。しかし、この数年でカウンター・パーティーのレート配信に関する仕組みが大きく変わり、以前は1秒に数回程度レートが更新される程度だったものが、1秒に数十回変わることも珍しくない状況でした。その為、菊池氏の率いる市場業務部では、特にスピードに対する意識が高まっていました。

当時、マネースクウェア・ジャパンの主要なカウンター・パーティーのシステムがニューヨークにあり、通信による遅延は往復で、200~300ミリ秒ありました。その為システム間を往復する間に為替レートが変わっている事も多く、カバー取引が不成立となる可能性が高いという問題を市場業務部では抱えていたのです。その頃、菊池氏は金融機関が多く利用しているエクイニクスのTY3データセンターのことを知りましたが、データセンターを移行するにはハードルが高く、タイミングを待っている状況でした。

そんな折、システム部門がハードウェアのリプレースを検討しているという話を聞き、データセンターも同時に移行するという決断が下されました。

*カバー取引とは、外国為替証拠金取引の価格変動によるリスクの減少を目的として、金融商品取引業者が当該外国為替証拠金取引と取引対象通貨、売買の別等が同じ為替取引、または外国為替証拠金取引を行うこと。





EQUINIX

「お客様の増加に伴い、トランザクションが増えても安定して高速な取引環境を提供できるインフラの構築が必要でした。エクイニクスのデータセンターに再構築したインフラは、主要なカウンター・パーティーとデータセンター内で相互接続できるだけでなく、エクイニクスの金融エコシステムにつながる事で、取引スピードのパフォーマンスを大幅に改善する事ができました。」

株式会社マネースクウェア・ジャパン システム事業部 シニアマネージャー 青木 陽二氏

データセンター構内で、カウンター・パーティーと直接接続

マネースクウェア・ジャパンの以前のシステムでは、各カウンター・パーティーとの間を専用線で接続していました。特にメインとなっていた日本とニューヨークを結ぶ回線は、高コストの割には、回線スピードや品質において、あまり納得がいくものではありませんでした。エクイニクスのTY3 IBXデータセンターには、FX事業者や金融機関が相互接続して、それぞれの取引システムのパフォーマンスを向上させる「金融エコシステム」が形成されています。マネースクウェア・ジャパンはこの金融エコシステムに接続することで、同じデータセンター内にある金融機関はもちろん、エクイニクスのプラットフォーム上にある金融機関とのトランザクションに関わるネットワーク遅延を最小限に抑え、遅延による問題を解決したのです。

同社の市場業務部ゼネラルマネージャー菊池氏は以下のように述べています。「エクイニクスのTY3には、主要なカウンター・パーティーである金融機関のシステムが稼働していたので、専用線から構内接続に切り替えることで通信によるスピードはLAN環境に近いレベルにまで向上させることができました。さらにエクイニクスの金融エコシステムには、世界中の金融機関が複数接続しているので、いろいろな業者と容易に接続が可能になります。安価につながる事が可能なので、カウンター・パーティーの選択肢も増えます。結果として、弊社のリスク軽減にもつながり、それがお客様に対して安定したサービスや充実した取引システムを提供できることにつながると考えています。」

通信コストも大幅に削減

エクイニクスへの移行は、遅延の改善だけでなく、大幅なコスト削減にもなりました。以前各カウンター・パーティーとの接続に利用していた専用線は、ビジネスにおいても大きなコスト負担になっていました。マネースクウェア・ジャパンが、システムをTY3に移設したことにより、その接続の多くはエクイニクスの構内配線サービス「クロスコネクト」に切り替えられたことで、全体の通信コストが約1/4に削減されました。

「メインで利用していた回線が海外との専用線だったので、コストも高く、冗長構成を組んでいたためさらにその負担は大きかったです。月額固定費用の縮小というのは事業を運営する上で大変重要な側面です。その分他の側面に投資する事ができますから。」(青木氏)とビジネスにも大きなメリットをもたらしました。

運用の簡素化とグローバル展開への期待

今回の導入は、合意に至るまでにエクイニクスとマネースクウェア・ジャパンの間でお互い納得いくまで話し合いが出来たことも、最終的にエクイニクスを採用した理由の一つでした。「当然私には熱意もありましたし、弊社のニーズは全て満たす覚悟で、打合せを重ねました。その気持ちに、誠実に応えてくれた担当営業の方には感謝しています。弊社からの無理難題に対して、エクイニクスの社内で熱心に調整を重ねてくれたからです。そこまで話し合ったため、導入が決まってからはミスも無く、ほんの数ヶ月で導入することが出来ました。」(菊池氏)

「弊社は『資産運用としてのFX取引』といった独自の立ち位置を確立しているので、システム事業部としても『独自で世界一のシステム』をつくる事を目標にしています。また、BCPの視点でも海外展開の意味でも、エクイニクスであれば海外拠点は充実していますし、弊社のニーズに迅速に対応できるであろうと期待しています。」(青木氏)

エクイニクスのグローバルな展開や、ネットワークの選択肢が充実している点は、エクイニクスのデータセンターが将来の拡張性やいかなる市場の変化にも対応できる(Future proofing)という評価につながりました。

2014年3月に東証一部銘柄となったマネースクウェア・ジャパンは、今回のシステムの再構築とデータセンターの移行によって、より一層安定した取引環境を構築し、今後もお客様の資産を預かる企業として、「挑戦と規律(Challenge and Standard)」という企業理念を掲げ、FX業界の新たなスタンダードになるよう邁進したい、と意気込みを語ってくれました。

株式会社マネースクウェア・ジャパンについて

2002年創業。東証第1部上場のFX取引の会社で、常に投資家視点に立ったサービスを展開しており、独自に開発し、特許を複数取得している発注管理機能の提供や、積極的な投資家向けセミナーを開催するなど「マネーゲームではない資産運用としてのFX取引」を浸透させるべくサービスを提供しています。

本社所在地

〒107-6240
東京都港区赤坂9-7-1
ミッドタウン・タワー 40F
<http://www.m2j.co.jp/>

エクイニクスについて

Equinix, Inc. (Nasdaq: EQIX) は、世界で最もネットワーク密度の高いデータセンターにおいて、4,500社以上の顧客企業同士、ならびにパートナー企業同士を、直接相互接続できる環境を提供しております。現在、アメリカ、ヨーロッパ、アジア太平洋における32の戦略的都市において、世界の様々な企業にエクイニクスの相互接続プラットフォームを活用していただいています。www.equinix.co.jpを参照ください。

エクイニクス・ジャパン株式会社

〒105-6133
東京都港区浜松町2-4-1
世界貿易センタービルディング33F
<http://www.equinix.co.jp>
03-6402-6970 (代表)
sales-jp@ap.equinix.com